

ダイヤモンド・プリンセス号における（公社）神奈川県病院薬剤師会の支援報告

○國分 洋（神奈川県病院薬剤師会）、小村 裕子（神奈川県病院薬剤師会）、山田 裕之（神奈川県病院薬剤師会）、喜古 康博（神奈川県病院薬剤師会）、小池 博文（神奈川県病院薬剤師会）、稲葉 健二郎（神奈川県病院薬剤師会）、金田 昌之（神奈川県病院薬剤師会）、佐村 優（神奈川県病院薬剤師会）、田村 英樹（神奈川県病院薬剤師会）、林 誠一（神奈川県病院薬剤師会）、白井 裕二（神奈川県病院薬剤師会）、川邊 桂（神奈川県病院薬剤師会）、大沼 弘和（神奈川県病院薬剤師会）、佐藤 真理子（神奈川県病院薬剤師会）、瀬川 誠（神奈川県病院薬剤師会）、谷川 浩司（神奈川県病院薬剤師会）、宮崎 悠（神奈川県病院薬剤師会）、盛川 敬介（神奈川県病院薬剤師会）、矢倉 尚幸（神奈川県病院薬剤師会）、金田 光正（神奈川県病院薬剤師会）

【はじめに】公益社団法人神奈川県病院薬剤師会は2020年2月10日よりクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号乗船者に対する服薬支援活動を行った。活動は横浜検疫所、ダイヤモンド・プリンセス号内、ダイヤモンド・プリンセス号前客船ターミナルで行った。

【活動】2月10日は横浜検疫所・客船ターミナルで活動を行い、13名が参加した。活動内容は取り揃え薬のチェック、乗客の服薬メモからハイリスク薬使用者の確認と分類、感染性廃棄物の適正管理および処理についての指導、医療用医薬品のハイリスク薬一覧の作成などを行った。横浜検疫所では乗客の服薬メモを元に薬剤の取り揃えが行われていたが、日本国内で使用されていない薬剤もあり、その場合は同種同効薬から代替薬剤を選択し提案を行った。また、乗客の服薬メモ約2,000枚についてハイリスクと指定された項目（抗がん剤、免疫抑制剤、ステロイド、糖尿病薬、慢性閉塞性肺疾患（COPD）治療薬、心疾患治療薬、腎疾患用薬、抗血液凝固剤）の服薬該当者を抽出し、該当者をさらに項目数毎（1項目、2項目、3項目以上）に分類し、緊急度の細分化を行った。客船ターミナルにおいては取り揃えの行われた薬剤に過誤のないよう、再確認を行った。2月12日はダイヤモンド・プリンセス号内で活動を行い、2名が参加した。ダイヤモンド・プリンセス号内へは検疫官として乗船した。活動内容は乗客の慢性的定期服用薬の取り揃え対応、DMAT（Disaster Medical Assistance Team）派遣医師との協議、英語による説明書作成、船内在庫医薬品リスト作成、在庫医薬品問い合わせ対応などを行った。乗客の慢性的定期服用薬の取り揃え対応では、乗客からの依頼書を元に船内在庫医薬品から取り揃えを行った。船内在庫がない薬については同種同効薬から代替薬剤を選択し、提案を行った。船内在庫医薬品リスト作成では、船内への医薬品初回搬入時に搬入リストがなく、在庫を確認するために多くの労力・時間を要した。さらに下船へ向けて医薬品の在庫を縮小していかなければならない状況であったため、それに合わせた在庫医薬品リストの作成を行った。2月13日は客船ターミナルで活動を行い、4名が参加した。乗客の中には船内での聞き取りとは別に、個別で直接大使館へ薬剤の相談を行った方もいたため、大使館より依頼された薬の取り揃えや取り揃えた薬剤の英語による説明書作成などを行った。

【今回の活動を通して】病院所属薬剤師と薬局所属薬剤師とで協働する場面も多く、常時連携をとり災害時の協力体制を整えておくことが重要であると感じた。また、ダイヤモンド・プリンセス号船内ではDMAT 派遣医師や看護師からの医薬品情報に関する問い合わせや在庫等の確認も多く、平時から多職種で働いている病院所属薬剤師の職能が発揮できる場であると感じた。ダイヤモンド・プリンセス号内と横浜検疫所や客船ターミナルとの連絡は基本的に厚生労働省の職員が行っていたが、薬剤管理に関しては専門的な意図が伝わらない場面や対応が遅くなってしまう場面もあったため、災害拠点と災害拠点外の連絡は薬剤師同士で行うのも一つの有効な手段であると感じた。

今回のような感染症という特殊な状況下での対応で、報道にもあったようなエリアの区分けや感染が疑われる物品や薬剤の取り扱いなどに関して薬剤師も専門知識を持ち、多職種で対応をとっていく必要があると考える。